



(となりびと)

— 国際教育センターからのお知らせ —

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校

No.02-01 2002.2.25 発行

国際理解まとめの学期！

### 初等学校「横田交換ホームステイ」無事終了

昨年12月に5,6年生14人が横田イースト小学校の児童の家にホームステイしました。そして1月25日(金)~27日(日)に横田のお友達を自分達の家に招きました。今回は一人のアメリカ人の児童がホームシックになり、翌日家に帰ることになってしまいましたが、あとは事故もなくそれぞれが違った体験をすることが出来ました。英語でコミュニケーションをとりにくい場合も、心と心の交流があり、異文化理解の良い経験になったことと思います。お世話いただいたご家庭の皆様、お疲れさまでした。

### 横田イーストスクール2年生との「楽しい交流」

2月8日(金)に横田イーストスクールの2年生44人が、オークレイ先生とスマイリー先生の引率で来校しました。本校の初等学校2年生とゲームやドッジボールを楽しんだ後、カフェテリアで、保護者の方が心をこめて作って下さったお昼ごはんをみんなで食べました。昼食後は、彼らの言う「サムライ・ハウス(北泉寮)」でお雛様をフィルムケースで作り、全員楽しい時間を過ごしました。当日は、多くの保護者の方々の協力を得て、素晴らしい交流の機会を持つことができました。英語でコミュニケーションをとることが多く、このような交流は啓明ならではのことだと感じました。ご協力ありがとうございました。

### いよいよ2月27日「国際理解教育の日・中国を学ぼう！」

昨年から中学校新・旧生徒会と有志の中学生が中心となって、準備を進めている「国際理解教育の日」がいよいよ2月27日(水)に開催されます。今年は、経済面でも急成長をしている「中国」を取り上げました。当日は3・4時間目に有志による中国遊び「羽けり」と「中国こま」の実演、生徒が演じる寸劇「中国って近い国?」、美術部による「龍」の展示、本校の中国語の先生であり、日中友好のために音楽を通して活動している吉崎恒子先生の歌と話そして、中国大使館の方からの感想など盛りだくさんの内容を予定しています。また、最後に全員が中国語で「海」(大海・ダアハイ)を歌います。今年は日本と中国の国交が正常化して30周年を記念する年です。この機会に「中国」について理解を深め、「国際理解教育の日」を実りあるものとしていきましょう。

同日、1・2時間目を使い、音楽科、社会科、数学科、英語科からの学習発表会も予定されています。見学希望の保護者の方は、どうぞお越しください。お越しの際は、公共の交通機関をご利用願います。席に限りがございますので、予めご了承ください。

## 国際ロータリー エッセイ部門日本代表 中学1年C組 金子 佳弘

国際ロータリー主催の「人類が私たちの仕事 ポスターと作文コンテスト」(テーマ・・・他の人々を援助することで、どのように世界をよくすることができるでしょうか?)のエッセイ部門で、中学1年C組 金子 佳弘君が見事日本代表に選ばれました。次は、5月頃にアメリカでの大会へ出場する予定です。世界を舞台に頑張ってください。今回日本代表に選ばれた彼のエッセイを掲載いたします。

僕は、今国語の授業でボランティアのことを学んでいます。その話の中には、今でも、全世界の85パーセントの人がきれいな水が飲めず、食べられず、学校へも行けず、病気になるっても病院にも行くこともできない。このように「明日もしかしたら死んでしまうかもしれない」という恐怖におびえながら生きているそうです。僕達にとって当たり前の日常を夢見ている友達が世界にたくさんいることをまず知ることから始まると思います。

子供の僕に何かできることは数少ないかも知れません。でも、その少しのことを何十人、何百人、何万人の人がしたらどうでしょう?一人ではできないことも力を合わせれば何か役に立てるのではないのでしょうか?

皆さんは「地雷ではなく花を下さい」という本を知っていますか?この本を買うとそのお金で少ないですが地雷を取り除くことができます。他にも募金をしたり、将来 NGOに参加し、地雷を取り除きに行ったりと、僕達子供が背負う地球の未来の責任ははかりしれませんが、きっといつか全世界の人が幸せになれることを願うことも大事なことだと思います。

そして今現在の地球を背負っている大人の人に、今世界がこんなにバラバラで今でも戦争をしている国がまだある。こんな世界にしてしまったという責任があると思います。

勝手な事情で多くの罪のない人が生命を失ったり傷付いたり・・・。そして多くの人達の家族が悲しんでいます。

どうかもう一度、もう一度考えてみてください。この世界のあるべき姿とこれからの未来。無理かもしれないけど、誰一人傷付かず、みんながみんな幸せにいつでも笑顔でいられるような日がくることを僕は願ってやまない。不可能を可能にする努力をしていくことが大事であるのではないのでしょうか?

全ては動かなくては動かず、始めなければ始まらない。

## A F S 留学生 カルラ・アルカンジェロさん「さようなら！」

昨年4月からA F Sの留学生として啓明学園で学んでいたカルラ・アルカンジェロさんは留学期間を満了し、2月2日にブラジルに帰国しました。皆さんにお別れのメッセージを残してくれました。

日本の生活とても楽しかったです。さいしょは日本語と英語も分からなくてコミュニケーションはたいへんだった。でも、だんだん友だちできた。日本語じょうずじゃないけど、ゆっくり覚えました。先生と友だちにありがとう言いたいです。みんなさいしょから私をたすけてくれた。本当にありがとうございました。啓明ですごいことやりました。いろいろなじゅぎょう啓明ではじめて勉強しました。さどう、じゅうどう、しゅどう、かていか、はじめてやりました。すごく楽しかったです。それでしゅうがくり

よこう行きました。京都、ひろしま、おきなわ、とても楽しかったです。

啓明のみなさん日本にきてすごくよかったです。みながおしえてくれたことややったことをいつまでも忘れません。もう一度、本当にありがとうございました。(原文のまま)  
カルラ

## 留学した高校生からのメッセージ

海外の留学から帰国した高校生からのメッセージです。是非、この貴重な体験を自分の人生や日本社会に役立ててください。

「S2A 岩下 朗子さん」

私は、去年2月から12月までの10ヶ月間、オーストラリアのビクトリア州にある公立学校へ留学していました。留学中の10ヶ月は、長いようで終わってみるとすごく短くて、本当に書ききれないほど色々なことがありました。日本にいたら分からなかったことや出来なかったことがあり、大変なこともあったけれど留学して本当に良かったと思います。

「S2D 佐藤 由佳さん」

私は2001年1月から2002年1月までの1年間、啓明学園の姉妹校であるオーストラリアのカンタベリーカレッジに留学していました。オーストラリアで過ごした1年は、長いようであつという間でした。私が、今まで生きてきた17年間の中で最も充実していた年と言えます。何もかもが新鮮で、毎日の生活がとても刺激的でした。かけがえのないたくさんの友達と広大な敷地の中での学校生活からは、日本では味わうことのできないような経験をたくさんして来ました。これは、私にとって一生の宝物です。

## 新しい仲間たち

2001年2学期中のお友達

初1B 山中 文登(オーストラリア)

2002年1月(3学期)からのお友達

初1A 芦田 早紀(アイルランド・イギリス) 初1B 高地 雄大(アメリカ)

初1B 錦織 麻友子(スイス) 初4B 荒瀬 光瞳(イギリス)

中1B 末吉 美佐(シンガポール) 中1C 赤羽 麻衣(スイス・ドイツ)

中1D 赤羽 留衣(スイス・ドイツ) 中2A 外山 スティーブンソニー(日本)

中2B 北山 奏恵(イギリス) 中2D 小林 勇樹(シンガポール)

中3C 荒瀬 由愛(イギリス)

高1C パク チョンヨン(韓国) 高2A 中村 友美(アメリカ)

高2C 高原 雄彦(イギリス・香港・中国)

短期留学

中1A カザ タイスケ(アメリカ)

高1B カザ コースケ(アメリカ)